

楽楽



◆練習スケジュール◆

月/日		会場	時間	備考
7月	13日 (土)	旭丘公民館	19:00~21:00	ヴォイトレ(男声対象)
	21日 (日)	中央公民館 305 音楽室	//	
	27日 (土)	旭丘公民館	//	
8月	3日 (土)	//	//	ヴォイトレ(ソプラノ対象)
	10日 (土)	//	//	
	24日 (土)	//	//	ヴォイトレ(アルト対象)
	31日 (土)	//	//	
9月	7日 (土)	瀬戸市文化センター	//	リハーサル
	8日 (日)	第 29 回瀬戸合唱フェスティバル (本番 11:55分)		
	14日 (土)	旭丘公民館	19:00~21:00	
	22日 (日)	//	//	
	29日 (日)	//	//	
10月	5日 (土)	//	//	
	12日 (土)	//	//	
	19日 (土)	中央公民館 305 音楽室	//	
	26日 (土)	旭丘公民館	//	

◆瀬戸合唱フェスティバルのお知らせ

9月7日(土)【リハーサル】

19:10 第1リハーサル室前集合

19:20~19:50 第1リハで練習

▶衣装 男女とも上は白色ベース(多少の柄有OK)袖の長さ自由のシャツ、Tシャツ、ポロシャツ、ブラウス、カットソー等。

20:00~20:30 舞台でのリハーサル

20:30~21:00 第1リハで練習

9月8日(日)【本番】

集合 9:20 第1リハーサル室前集合

9:30~10:00 発声・練習

本番 11:55 本番

13:10 全員合唱・・

「ふるさと」「花は咲く」

◆尾張旭市市民音楽祭のお知らせ (詳細は10月号でお知らせいたします)

日時 平成25年11月10日(日)

(1) 会場 尾張旭市文化会館 大ホール

(2) 出演時間区分 午前:吹奏楽やマイクを使う団体 午後:コーラス及び器楽演奏

(3) 演奏時間 15分以内(出入りを含む)

新入団員の紹介

Welcome 旭混声 !



7月よりベースに、また一人力強い助人が加わりました。 **近藤新二さん**です。

プロフィールについてはいずれ「楽楽」で詳しく紹介します。

◆合唱連盟の合唱祭 感想文が届きました。

今年も素敵な感想を5件いただきました。この5件が多いのか少ないのか、興味のある所ですが。

内容はとてもうれしいものです。え!リップサービスですって!いいえ、この文面は真実の声です!

(1) 15才の女性 合唱歴:不詳

パートのバランスも良く、声唱がすごかったです。歌っている時、皆さんは生き生きとして、とにかく感動しました。

(2) 性別、年齢、合唱歴 不詳

男声が力強くてステキでした。「糸」は名曲ですね。歌詞をもっと聴きたかったです。(客席では聞き取れなかったのでしょうか)

(3) 18才の女性 合唱歴2年

カラフルな衣装がステキでした!皆さんの元気でパワフルな歌声を見習いたいです。

(4) 52才の女性 合唱歴20年

人数が多くて「いかにも合唱」という感じで非常に良かったです。女声、男声、それぞれにまとまっていた。

選曲も耳慣れた曲で、おしゃれたピアノとアレンジで楽しく聴かせて頂きました。

(5) 17才の女性 合唱歴2年

歌が始まった瞬間、とり肌が立って、鼻がツーンとして「糸」が終るとき涙が溢れてきました。気持ちのこもった歌で、私の目指す合唱だと思いました。私も先輩たちのように気持ちのこもった歌が歌えるように練習していきたいと思います。感動する歌をありがとうございました。

◆コンサートを聴いて

6月14日英国の署名なア・カペラ合唱団「タリス・スコラズ」を聴いてきました。ブラボ!でした
Sp×4名 AL×2名 Te×2名内1名はカウンターテナーBa×2名の10名編成。深みのある変幻自在のハーモニに酔い痴れました。曲目はルネッサンス期の教会音楽、パレストリーナやジョスカン・デ・フレの曲も入ってい

ました。カウンターテナーが入る事で更に輪郭と奥行というか立体感が出ていました。絶妙なアンサンブル神谷先生の言われる「風に靡く絹布」に、突然現れる不協和音にドキリとして、これがまた料理のスパイスとなってより一層音楽を引立てていました。「ぶつかり合った濁りが美しい」とおっしゃるお方もいて一緒に聴いた旭混声の人達の賞賛の声に羨望の念が滲んでいました。(お名前)

イベント情報

◆ 第14回 Voci Amie (ヴォーチ・アミーケ) 演奏会

日時 2013年8月4日 16:30 開場 17:00 開演
場所 ザ・コンサートホール (伏見 電気文化会館)
入場料 2500円

◆ 第1回 尾張旭 コーラスフェスティバル

日時 2013年7月27日 13:30 開場 14:00 開演
場所 尾張旭市文化会館ホール 特別ゲスト金城学院グリークラブ 愛知高等学校合唱部 旭野高校合唱部
※入場整理券を当日、文化会館で配布します。

『永訣の朝』をより理解するために (3)

【お役立ち MEMO~No. 8】 T. 酒井

宮沢賢治の最大の理解者であると共に最愛の妹だったトシが、どのような人でどのような生涯を送った人なのかはあまり知られていません。以下のような参考資料を見つけましたので皆さんにご紹介することにしました。斎藤雅也氏ⁱのオフィシャルサイトに投稿された「宮澤トシの生涯」についての概要を記載しておきます。賢治との関わりについても理解する参考になるものと思います。

☆宮澤トシの生涯と賢治への影響

1898年(明治31年)11月5日生まれ、小学校時代は模範生として表彰を受ける。女学校時代を通じて、毎学年首席の成績で級長をつとめた町中で評判の秀才だった。2歳年上の賢治はもちろん、宮澤家自慢の才媛であった。

そのトシがはじめて試練を受けるのが女学校卒業間際。当時、新任の音楽教師にほのかな恋心をいただいていたが、その教師あてにしたためた手紙を落とし、拾った級友が言いふらしてしまう。さらに不運なことに、「岩手民報」が「新任の音楽教師と二美人の初恋」と題して3日連続で無記名のゴシップ記事を掲載。記事は花澤文子という仮名で書かれているが、「入学以来只一度も『組長』と言う名義を外の女に譲った事のない彼女」、「学術優等品行方正と麗々敷書き記された幾枚かの賞状を重ねて」の記事からトシであることは容易に分かる。トシは全校の好奇の目に晒されながら、卒業式で答辞を読み、故郷から逃げるように、東京の日本女子大学に進学する。(この羞恥と後悔にまみれた体験を、トシは教職につく前に、自らの心の整理のため、「自省録」として記す。) 1919年3月(21歳)、同大学を卒業する。

賢治とトシはたいへん仲の良い兄妹だった。1918年(大正7年)6月(20歳)、体調悪く保養に、又、12月に東大分院永楽病院に入院したトシを、賢治は下の世話までし、つきっきりで看病している。ともすれば理想だけに走りやすい賢治のよき相談相手となったトシは、妹というより、恋人のような存在だったのではないかと。1920年(大正9年)22歳、母校花巻高等女学校の教諭となる。1921年(大正10年)23歳、6月頃から臥床、8月熱が続く、9月喀血、9月12日付で退職する。

その最愛のトシが24歳で亡くなる。賢治はその日、『永訣の朝』『松の針』『無声慟哭』の詩を万感を込めて詠む。ⁱⁱ その後7ヶ月、賢治は詩作をしていない。

翌年の夏、青森から北海道を經由して樺太まで、トシの魂を追う旅を続けた賢治は『青森挽歌』はじめ一連の挽歌群を詠む。宮澤賢治は最愛の妹トシの死という悲しみを超え、詩人として大きく羽ばたいた。

賢治とトシはよく手紙を交換した。日本女子大時代のトシはキリスト教や、校長の成瀬仁蔵の思想を兄に紹介している。『銀河鉄道の夜』で賢治は、宗教を超えた宇宙意志の存在をテーマにとり上げている。そこに妹トシの影響を見るのである。

故宮沢トシさんの命日に 合掌

1: 斎藤雅也: 岩手県生まれ、小説「燃え上がる炎とともに」が平成19年に日本図書館協会選定図書に選ばれる。毎日新聞「いわて文庫」短歌部門2008年下期賞受賞。第一歌集『花の散るころ』（青磁社刊）で第5回日本短歌協会賞次席。

1: 『春と修羅』諸篇のこの3編: 作品日付は初版本で《妹トシの永眠》1922年11月27日と記されている。

<参考>技術委員長の須田さんから配布された《『宮澤賢治の世界』永訣の朝: 宮澤賢治「春と修羅」》投稿サイトの続きで、詩と解説が下記のウェブサイトで閲覧できます。妹トシの死を悲しむ心情が読まれています。

☆松の針: 宮澤賢治「春と修羅」 <http://kenji.hix05.com/kenji08.matsunioki.html>

☆無声慟哭: 宮澤賢治「春と修羅」 <http://kenji.hix05.com/kenji09.doukoku.html>



～こころをつなぐインタビューリレー～

アルト梅村さんからのバトンパス、

今回のランナーはソプラノの中沢 佳代さんです。

<まずは前回のランナーの梅村さんからの質問です。>

■この度、副団長をお引き受けくださいました。抱負をひとこと！

「抱負」なんてとんでもない。毎回、何か忘れたことがないかとヒヤヒヤしながらの状態です。なんで私が副団長???といつも思っています。至らないことが多く、何気にさりげなく助けてくださっている前副団長の松本恵美子さんはじめ、みなさんにフォローしていただき感謝、感謝です。

<広報からも少しお聞きしてもよろしいでしょうか？>

■ご出身や特技など自己紹介をお願いします。

生まれも育ちも尾張旭です。今は実家で敷地内同居です。遊びに行くと遅く帰った翌日の、母の「昨日は遅かったね」の一言に、まだまだ監視下にいるような気がしていました。母にとって私は、いくつになっても子どもなのです。そういう私も大学生になった息子の帰りが遅い時は、帰ってくるまで心配しますので、このごろは母の気持ちも理解できるようになりました。(靴下をはかせていた子も大学生になりました。子どもが大きくなるのは嬉しくもあり寂しくもあり、です。)

特技なんていうものはありませんが、「お茶」のお稽古を続けて30年以上になります。月に2回茶室に入りますが、その時間は普段感じる事のない緊張感を感じる、心地よいひとときです。稽古日に出ているお道具の取り合わせと、今度はいつ出会えるのかと考えると、まさしく「一期一会」！毎学ばことの多い世界です。気がつけば年数が経っていました。でも年数が経っているだけで、自分が満足できるお手前が出来たことは今だけでなく、とても奥の深い世界です。

■合唱を始められたきっかけは？

中学2年の時習っていたピアノの先生が、ソルフェージュも教えてくださり、「歌うって楽しいんだ！」と思いました。それで高校、大学と合唱部に入りましたが、大学卒業後しばらくは歌う機会がありませんでした。

た。藤田さんに「旭混声」に誘っていただき、再び歌うことができました。

■今まででお心に残っていることをお聞かせ下さい。

大学2年の時所属していた合唱団の演奏会の日のことです。開場間近、何を思ったのか私は舞台へ行ったのです。開場の準備をしている方々のなかでピアニストの先生がピアノを弾いていました。その後姿がとても美しく今も覚えています。



■これから歌ってみたい曲は？

できたらもう一度「岬の墓」を歌いたいです。

■団の皆様にとのこと。

この場をお借りして皆様にお伝えしたいことがあります。3年前父が亡くなり実家を継ぐものがいなくなりました。生前父は、孫に後を継いでほしいとよく言っていたので長男の大学進学を機に、家族の了承もあり、家族全員で私の旧姓「若杉」を名乗ることにいたしました。旭混声では皆様に「中沢」でお世話になってきましたので、今まで通り「中沢」と呼んでいただいても全然構いません。自宅に電話をいただいたとき「若杉」と名乗りますが間違いではありませんので電話を切らないでくださいね。(笑)

《坊っちゃんが小学6年生になられるまで靴下をはかせて差し上げていたお話しは有名ですよ(*_*)。面倒見のいい、お優しいお母さんですね♡》 S・植村